

人、前田又勝へ被預、寛文七年八月廿九日割腹、男子は殺害を命ぜられるとあつて、この時に断絶した。

アギシガハ 阿岸川 源を鳳至郡小石に發し、西流して千代を經、南に至つて海に入る。流程八軒。北野川ともいふ。

アギシゴウ 阿岸郷 鳳至郡に屬し、藩政時代では、白禿・大切・江崎・二又・小山・椎ノ木・新町分・鍛冶屋・中田・南・池田・藤濱・北川・是清・千代・猿橋・小浦・山是清の十八ヶ村を合んでゐた。

アキジマリオウケ 秋縮御請 組織許の十村(平十村又は御扶持人十村)は、秋季彼岸に入る時は、各村肝煎・組合頭・長百姓を己の家に召集し、當年の作物に異状なきが故に實入り次第取り、歩入御定に従うて納租し、夫銀も亦九月廿五日までに上納すべく、その皆濟せざる間は新米を食用に供し、或は債務辨濟の爲に費消し得ず、又既に皆濟したる時は皆濟狀を得て之を提出すべしといふ如き條項を列擧した帳册に捺印せしめる。之を秋縮御請といふ。この帳册は一村毎に作り、一組の分が取揃うた時は、十村から改作奉行に飛脚を走らせ、當年の收納は御藏入・給人知共に皆濟すべく、配下各村某日までに秋縮御請を徴して見届けたといふことを注進する。秋縮御請を爲したるものは、その後に至り決して違作を申立てることを得ぬ。

アキツネ 秋常 能美郡山上郷に屬する部落。

アキノクレ 秋のくれ 一册。小松の俳人子鼻・桃方編。明和七年、加賀小松板。編者の發句及び連句を集め、巻末には桃世・野冬

二人を加へて、近郷探勝の春興漫吟を添へてある。

アキノボウ 秋の坊 俳人。もと石川郡鶴來の産ともいひ、金澤魚間屋何某の隠居ともいはれ、金澤卯辰蓮昌寺の別堂に住み、北枝その他と交深かつた。享保三年正月四日歿。その他と交深かつた。享保三年正月四日歿。法號寂玄院日明。その辭世として傳へられる『正月四日よりづ此世を去るによし』の句は、

正徳二年百花堂文志の印行した布ゆかたに、伊勢の涼菟が大坂の飄竹追善の爲にしたものとして載せてあるから、秋の坊の作とするは誤であるといふ。しかし忌日の正月四日であることは、蓮昌寺の過去帳にも、支考の獅子物狂にも記されてゐる。

アキハマ 秋濱 河北郡金津庄に屬する部落。

アキモトサマノスケ 秋元左馬允 初め越前松平忠直に仕へたが、忠直の配流の際前田利常に御預となつて七十五石を給せられ、子忠右衛門も亦父と共に三十石を受けた。忠右衛門の子典助は前田綱紀から百石を祿せられ、延寶五年歿。典助から第四代幸次郎雅富に至つて家断絶した。

アキモトマサトミ 秋元雅富 通稱は幸次郎。寶曆十二年父喜三右衛門泰雅の遺知百五十石を襲ぎ、組外に列したが、尙若年であつた爲、叔父與力柴田百助が同居後見してゐた。然るに百助は博奕宿をなして吟味中出奔自殺し、雅富も明和二年十二月廿四日改易に處せられた。

アキヨシ 秋吉 珠洲郡木郎郷に屬する部落。

アゲジタウゲ 安具寺峠 羽咋郡越ヶ口・

中平間の峠路。高さ二七〇米。

アクトノフチ 安久瀨淵 石川郡白山比咩神社はもと手取川安久瀨の淵の上なる安久瀨の森に鎮座した。その所を今古宮といふ。蓋し白山比咩神社は、創立の初からこゝに在つたので、神主家の傳説に、舟岡山から安久瀨淵の上に遷り給うた如く言ふものは、何等の據がない。文明十二年十月社殿焼亡の後、三ノ宮の社殿に遷座し、遂にそのまゝとなつた。元祿十三年版行の草庵集に『神主や鱒わきばさむ岩の上 枝東』とあるは、安久瀨淵あたりのことであらう。

アゲガラスイネン 曉鳥依然 石川郡出城に在る眞宗東派明達寺十七代の僧で、學徳並びに高く、又奇行が多かつた。著書に二種深信講話等がある。明治廿六年五十歳で歿。

アゲチ 上地 神社・佛寺又は武士が、從來藩から受けてゐた屋敷を、藩に返上した場合に、その地を上ヶ地といふ。

アゲハラヤマ 揚原山 能美郡瀬木野の西方に在る山。高さ四八七米。山體石英粗面岩。

アゲハラヤマ 舉原山 石川郡見定に在る。高さ九五〇米。山體第三紀層。登路見定から頂上まで二軒。

アケボノ 明ぼの 一册。金澤の俳人大常編の發句集で、金城書林寶賢堂の印行であるが、その刊年は不明である。

アゲマイ 上米 寶曆六年加賀藩が銀札の發行を廢止した後、府庫最も窮乏したから、諸士をして知行五百石以上は百石に付き十石、以下順次遞減した率で、藩に米穀を獻納せしめた。これは諸士の自發的になした建前

になつて居たから上げ米といつた。上げ米は十年に至つて廢し、明和八年再び之を納めしめた時からは借知といふ名義にした。

アサカイチノカミ 淺香市正 淺香三郷の二男で、作左衛門の弟。大坂再役に從軍し、青屋口で敵首一つを討取つたが、後事によつて能登に流され、三齋と號した。

アサカカズサト 淺香三郷 通稱出雲・左馬助。本姓湯淺氏。初め蒲生氏郷に仕へ、陸奥安積城を守つて安積を氏としたが、後淺香に改め、慶長十九年前田利常に仕へ、元和の再役に首二つを獲た。知行は元和元・二年士帳に馬廻頭三千石淺香左馬助と見え、寛永四年士帳には馬廻頭三千七百五十石淺香左馬助とあつて、その七百五十石は與力知であつた。寛永十一年歿。

アサカサクザエモン 淺加作左衛門 淺香三郷の嫡子。寛永十一年道知の内二千五百石を受け、淺香氏を淺加に改め、同十九年歿した。

アサガダケジヨウ 麻ヶ嵩城 麻ヶ嵩又麻ヶ嶽又は朝ヶ嶽に作る。一にとんの城といふ。鹿島郡久江から東に當る麻ヶ谷に在る。弘治三年溫井景隆之を築いたが、長續連の爲に陥れられ、天正四年には越後軍が上杉織部義辰をこゝに置いて、七尾城に備へしめたといふ。

アサカトモサト 淺加友郷 幼名左太郎、後左藤次。九丞通郷の子。文學を好みて詩歌を作り、最も強記にして一たび見聞したことを決して忘れなかつた。享保十二年五月四日歿した。

アサカハシン 朝川麩 大聖寺の士横江丈